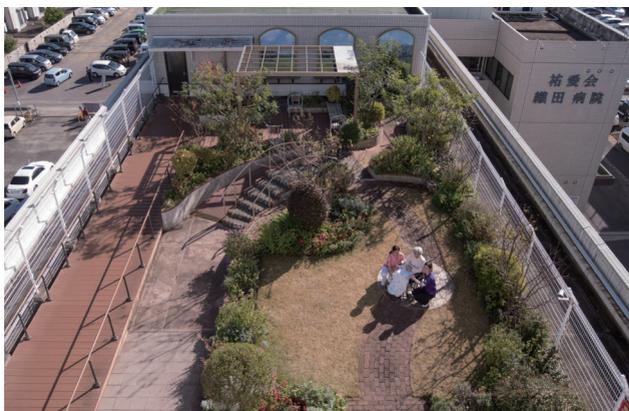




リビングのような環境の認知症対応専用ユニット (Dementia Care Unit : DCU) (後述) ではユマニチュード^{*1}を実践。看護師の川下みのりさんは、相手を大切に思っていることを伝えるために、座っている相手を見下ろすのではなく、腰を落として正面から見上げ、手に触れながら話す

患者を生活の場に帰す ——自分らしく最期までを支える

社会医療法人祐愛会織田病院 (佐賀県鹿島市)



入院患者に癒やしとくつろぎをもたらす織田病院の屋上庭園。リハビリにも活用できるよう階段や坂道なども設けられている。写真はDCUの患者へ光療法^{*2}を行っているところ

「治す医療」から「治し支える医療」への転換が求められる今、佐賀県鹿島市で二次救急医療を担う社会医療法人祐愛会織田病院は、入退院支援や退院直後の在宅療養支援、認知症患者へのケア等を充実させて、入院患者を生活の場に帰し、さらにそこから先を支える活動を進めている。AI、IoTなどの技術も活用し、患者・家族の安心・安全を守り、その人らしく最期までをかなえる取り組みを紹介する。



織田病院外観

【取材先】

◎社会医療法人祐愛会織田病院
佐賀県鹿島市大字高津原4306 電話0954-63-3275

- ★1 フランスの2人の体育学の専門家イヴ・ジネスト氏とロゼット・マレスコッティ氏が開発したケアの技法。「見る」「話す」「触れる」「立つ」を「ケアの4つの柱」としている (日本ユマニチュード学会ホームページ参照 <https://jhuma.org/humanitude>)
- ★2 睡眠障害等の治療法の1つで、太陽光等で生体リズムを整える